顧客のあらゆるニーズに応えるべく 進化を続けるものづくりの精鋭集団

1985 年の創業以来、37 年に亘ってものづくりを続けてきた『ヨモツ工業』。設計組立工場兼エンジニアとして、日本の産業を支えてきた。やがて複雑な加工といった顧客の幅広いニーズに応えるべく、体制を強化。現在は精密機械加工や機械装置組立などを手掛け、交通機関や食品、医薬品業界をはじめとする、あらゆる業界の顧客から絶大な信頼を集めている。本日はタレントの島崎俊郎氏が、二代目・森山社長にインタビュー。

ヨモツ工業 株式会社
【本社工場】大阪府大阪市住之江区北加賀屋 4 丁目 8-5
【第二工場】大阪府大阪市西成区南津守 5 丁目 6-93

株式会社 ナニワ機械製造
大阪府大東市新田西町 1-39
URL：https://www.naniwa-machinery.com

代表取締役
森山 賢一

【森山社長の足跡】
大阪府出身。鉄工所を経営する父親の背中を見て育つ。学業修了後はサービス業を経て、家業へ。ものづくりの技術を磨きつつ、飲食業も展開するが、20 代半ばで家業への専念を決意。2017 年に代替わりを果たした。現在は積極的に設備投資も行い、さらなる事業拡大に向けて努力を続けている。

ものづくりの楽しさに目覚め 技術力を磨いた日々

――『ヨモツ工業』さんは、長くこの地域に根差して経営を続けてこられたものづくり企業だと伺いました。

1985 年に『アカツキ製作所』という社名で父が創業し、35 年以上に亘ってものづくりに携わってきました。当初は設計組立・エンジニアを生業にしていましたが、時代の流れから組立装置だけでなく、複雑な加工といったお客様の多様なニーズにも応えていくようになり、仕事の幅が広がっていきました。今は産業用機械装置をはじめ、半導体製造装置、油圧装置、バルブ製造・加工や、精密機器部品製造・加工、樹脂加工などを手掛けています。

――お父様の背中を見て、森山社長も早くから後継を考えておられたのですか。

製造業は男社会、しかも年配の人が多いというイメージがあったので後継は考えておらず、むしろスーツを着てビジネス街でバリバリ働くような華やかな世界に憧れていましたね（笑）。ですから学業修了後はしばらくサラリーマンをしていたんですが、「人手が足りないから手伝ってくれ」と父に言われ、20 歳の時に家業に入りました。

――実際に働いてみていかがでしたか。

ものづくりの楽しさや、社会に欠かせない重要性が徐々に分かってきて、魅了されました。とは言え、その時はまだ製造業以外への憧れもありましたから、家業の支障にならない約束で、私だけ飲食業も手掛けていました。ですが、ものづくりへの意欲が強まり 20 代半ばの時に家業に専念することを決めました。

――それまでの憧れを覆すほど、ものづくりに熱中されたわけだ。その魅力はどんなところにあるのでしょう。

当社は交通機関や食品、医薬品、化学、機械装置メーカーなどあらゆる業界のお客様のニーズに応えています。本当に色んな案件があり、例えば日本を代表する劇団の舞台装置の部品一式を当社が製造させていただいたことがあります。他にも、今は遠心分離機の開発に携わっていますよ。この遠心分離機に土を入れて 100G の重力をかけて 1 年間回し続けるんです。すると中の土は 100 年もの時間が経過したことになります。「この土を埋め立て用に使って、100 年後も問題が起きないか」という実験のために、この遠心分離機が使われているんですよ。

――面白いですね！　一般的に描く製造業のイメージとは随分違います。

自分たちの仕事が、世の中のどんな役に立っているかを知るとやりがいを感じます。ものづくりはやればやるほど面白く、お客様にも喜んでいただけて、社会貢献にも繋がっているんです。そういったものづくりの楽しさを若い世代に伝えて、この業界で働きたいという若者を増やしたいですね。一般的に、製造業イコール 3K とイメージされる方がまだまだ多いですが、そのイメージを覆すべく、働きやすい環境づくりや、仕事の魅力を伝える努力を続けていきます。

信頼できる仲間に恵まれ急成長 子会社と共に一層の躍進を期す

――いつごろ代替わりされたのですか。

2017 年です。その時に社名も現在の『ヨモツ工業』に変更しました。10 年ほど前から実質的に私が事業を取り仕切ってきたので、代替わり後も特に困ることはありませんでしたね。

――スタッフさんは何名おられるのでしょう。

子会社を合わせると 30 名ほどになります。私が入社した当時は父と伯父を中心にもっと少人数だったのですが、私の友人やその紹介で新しい人に入ってもらい、徐々に人材を増やしていきました。ほとんどのメンバーが未経験での入社でしたが、皆も私同様に仕事が面白くなってどんどん技術力を高めていったんです。今は友人に工場長を任せており、良い仲間に恵まれて、皆には感謝の思いが尽きません。皆のお陰で「『ヨモツ工業』なら何とかしてくれる」と口コミが広がり、仕事が増えていきました。

――信頼する仲間がいると心強いですね。ところで、今年『ナニワ機械製造』さんを子会社化されたとか。

混錬機の設計・製造・販売を手掛ける『ナニワ機械製造』とは元々取引があったんです。そちらの社長が体調を悪くされ、M&A の話が出た際、当社が手を挙げました。大手企業とも取引があるほど技術力の高い、信頼できる会社なので、これを機に二社で大きく飛躍したいと考えています。

――これからが楽しみですね。今後についてはいかがですか。

近い将来、3 カ所にある工場を 1 カ所に統一したいですね。そして積極的に設備投資を行い、攻めの姿勢で挑戦を続けていきたいです。私は何か迷った時には困難なほうを選ぶように心掛けています。守りに入るのではなく、あえて挑戦を選ぶ――人生を懸けて勝負し続けることが、経営者としての私の役目だと思っています。

――挑戦なくして成長はない、ですね。陰ながらではありますが、私も応援しています！

（取材／ 2022 年 8 月）

ゲストインタビュアー
島崎 俊郎

Column

家業に入ってお父様と一緒に働くようになり、ものづくりに対するそれぞれの姿勢の違いに気づいたという森山社長。

お父様は所謂、昔ながらの厳格な職人タイプの方で、自身の考え方や仕事の進め方に対してもこだわりが強かった。一方、社長は他社との差別化を図ることを第一とし、そのためには柔軟な対応こそが大切だという構えだった。それ故、例えば他社より短い納期で仕事を納めるために、社長は休日にも仕事をすることがあったという。休日出勤は、当時お父様の理解をなかなか得られず、孤軍奮闘していた社長。そんな社長を支えるべく、社長のご友人が日曜日に出勤し、翌朝まで一緒に働いたこともあった。

こうした努力で顧客の期待に応え、多くの信頼を得るに至り、飛躍的に事業が成長した『ヨモツ工業』。お父様も社長の努力を讃え、代替わり後は「やれるところまでやってみろ」と応援してくれているそうだ。

顧客はもちろん、先代や社員の皆さんの期待を背負い、社長はこれからも前進を続けていく。

after the interview

島崎 俊郎・談

「ものづくり業界を目指す若者を増やしたいと語る森山社長。社長は『私自身、若いころは製造業以外への憧れがあったので、若者の気持ちを理解できます。そして今は、ものづくりの楽しさを十分に理解しているので、その魅力を伝えられる。この２つの強みを活かしていきたいですね」と語っておられました。社長だからこそ、伝えられることが沢山あると思いますし、より一層ものづくり業界を盛り上げていっていただきたいですね。応援しています！